

第5回 容れる

今回は、独自の工夫をしてデザインに手が込んだものが多い、手作りの煙草ケースを紹介します。

煙草ケースを作るための道具などなかった収容所では、労働などを通じて手に入るものを道具として転用しました。例えば、金床はレール、金鋸はレールを止める犬釘に穴をあけて柄をつけ、タガネや釘などはワイヤーロープを焼いて形を整えて作りました。

必要な道具のない中で、自分でコツコツと工夫を凝らして作った煙草ケースは、大事な宝物でした。

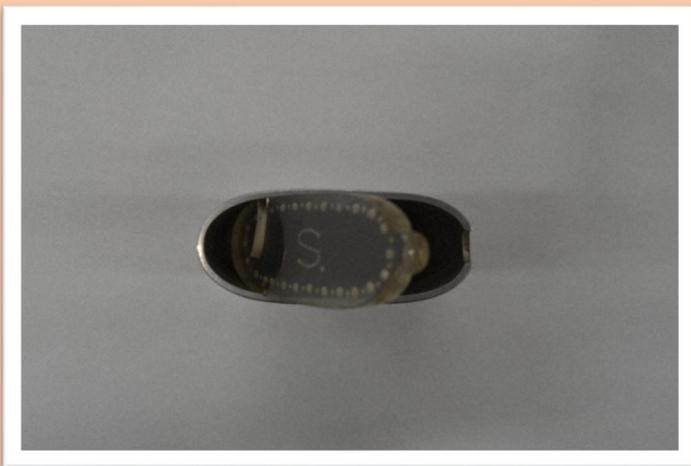
○ 館内展示品



左上のケースには、富士山のような絵が、中央上段ののケースには鯛の絵と「寿」の文字が彫られています。

ほかの木製のケースにも文字が彫られていたり、ケース自体にデザインが施してあったり、それぞれが心を込めて丁寧に作られているのがよくわかります。

○ 煙草ケース



楕円筒形の金属でできており、フタの部分は、プラスチックのような素材で「S」の文字と周囲にドットが彫られています。